

ないもん欲しがらんで、あるもんを喜ばしてもらおうよの一。

最近、随分前から大事にしています、「NHKラジオ深夜便 ころの時代 如来と共に生きた人」というテープに収められている、河村とし子さんのお話を久しぶりに聞きまして、改めて非常に感銘を深くし、思わず涙があふれた次第であります。今回は、そのお話を紹介して記してみようと思います。

河村としさんは、元々非常にキリスト教の信仰が厚い家庭で育てられたのですが、戦前恋愛結婚したご主人の実家の山口県の随分辺鄙な田舎に疎開で住むことになり、そこの義理の両親と一緒に暮らすことになりました。はじめ、このような田舎の大きな仏壇がある家に住むようになって、さぞかし皆この人は迷信深い程度の低い宗教に親しんでおられると思い、自分は熱心にそのご両親に毎日キリスト教を説いて聞かせたそうです。そうしたところ、そのご両親は厭な顔一つも見せず、「そうか、そうか」と毎日聞いてくれたそうです。

そのうちに、村の浄土真宗のお寺で法話会が開かれる日になると、ご両親は毎回それをととても楽しみにして、いそいそと嬉しそうにお寺に参ったそうです。それも、法話の間にうとうとと眠くなってしまったら大事なお話が勿体無いので、ちゃんと昼寝をして眠気を取ってから聴聞に出かけたとのことでした。

そのご両親は「人間として一番大事なことは仏法聴聞することで、仕事というものはお聴聞の余りがけ、つまりその仏法聴聞の余りの時間で仕事をしたらよい」ということをよくおっしゃっていたそうです。つまり、日常生活の柱は、仏様の御教えを聞くことでありまして、これは現代私ども日本人の大多数の考えとは随分異なりますね。私どもは通常、毎日食うために仕事して、つまり生活問題に汲々としているのでありまして、仏教なんて聞こうが聞くまいが、そんなことどうでもええと思っている方のほうがおそらく多いでしょう。

しかし、そのご両親の日暮らしを見ていると、「日の良し悪しだとか、方角だとか、まじないだとか占いとかは、我が家の御開山さま（親鸞聖人）は一切迷信だと断ち切っておられる。」と、沢山の現代人が迷っている事柄に対して、すべての現象は、無量無数の因と縁のお蔭様で生じていると、仏の教えに立って、一切を如来つまり仏にお任せして安心して暮らしておられたのであります。

そのとし子さんの義母であります河村ふでさんは、毎朝目が覚めると、「ああ、今日も手が上がって下さる。目が見えて下さる。足が動いて下さる。有り難いことじゃの一、お蔭様じゃの一」と毎日感慨深くおっしゃっていたそうです。また、大便小便を済ますと、よく合掌してその大小便に対して拝まれていたので、とし子さんが何でそうなさるのですかと聞かれると、「いただきますと、口からお迎えしたお命が、血となり肉となって大きなお仕事をしてお帰りになるときは、手を合わせて拝むのは当たり前じゃの一」と答えられたそうです。なんと豊かなお心でしょうか。すべてにご恩を深く感じておられたのですねー。

また、農家でありましたので、田畑で作物の生育のために雑草を引き抜かねばなりません。ふでさんは「すまんことよの一、人間の浅ましきやの一」と独り言を言いながら、一本一本押し頂き拝むようにして抜かれていたそうです。すべてのいのちの平等性を感知する仏様の眼を備えておられたのですねー。

このご両親は実は、すでに4人の子供さんに先立たれており、さぞかし寂しい暗い表情で暮らしていると、とし子さんは当初思っていました。実際はそんな暗さは全然なく、むしろ日々安らかに朗らかに幸せそうに、静かにお念仏されていたそうです。それは、先立たれて仏様とられた子供さんたちと、一如の仏の世界の中で、お念仏の中でいつも出会われていたからなんですね。

ふでさんは、よく独り言をおっしゃっていたそうです。「人間ちゅうもんは、自分しかかわゆうないもんじゃげの一。そういうもんが一緒に暮らすというのは有り難いことよの一」と。また、「ないもんを欲しがらんで、あるもんを喜ばしてもらおうよの一」と、つまりあれが欲しい、この人はこうあって欲しいと、自分の外側のものに対してあくまでも欲求し、そしてそれがままならず怒り苦しむようになる自分に対して、今すでに頂いているものの功德の大きさに目覚めて、自分が今こうしてあるというご恩、お蔭を喜んでくれよ一、と自分にいつも仏様の智慧・慈悲を味わいつつ暮らしていかれたのでしょうか。ちなみに、ふでさんは小学校も出ておらず、平かなカタカナも読み書きできなかったそうですが、お寺で聞かれた仏様のお話は、深く身に沁み込んでいたのですね。

河村とし子さんは、特にこの義母ふでさんと一緒に暮らしている間に、思わず知らず深き念仏者となられ、今年の1月にお亡くなりになりました。著作も沢山あり、東本願寺からは「ほんとうのしあわせ 仏縁に恵まれて真の人生」という小冊子が出版されています。自我を主張して止まない現代の世相に、お伝えし続けたいお話です。合掌(ご感想等どうぞ。 mikinakura87@gmail.com)